

第1431回（6月13日）

中国農村工業化地域における農村金融機関の機能

——江蘇省無錫県H鎮を事例として——

小野智昭

中国では市場重視の経済改革を背景に、農村金融の需給両面で変化が生じている。すなわち与信者側では、金融機能重視の金融改革が行なわれ、また中国人民銀行から中国農業銀行（農銀）が分離独立した。加えて従来農業銀行の下部機関化していた農村信用合作社（信用社）の協同組合としての育成が図られている。他方受信者側では、人民公社の解体と各戸請負制により農業資金需要が縮小し、反面で農村工業（郷鎮企業）の発達による農外資金需要が増大している。

本報告では、1987年9月に江蘇省南部の農村工業化地域で行なった調査をもとに、農銀支店と信用社について、資金需給関係の変化の中での両者の機能と、さらには両機関の関係（従属、独立）とその要因を検討した。

(1) 全国的な傾向である両金融機関の「農業金融機関」から「農村金融機関」への機能変化は、対象地域においてはさらに明確に現れている。貸出額に占める農業貸出しの比率は、農銀支店で2%（商業を含めた広義の農業では17%）、信用社では3%である。他方、郷鎮企業貸出しは、前者は83%、後者は96%である。

(2) 両金融機関の間では分業が行なわれている。すなわち貸出先は、農業分野では農銀支店は国営、集団農業へ、信用社は個人農業へ貸出し、また非農業分野では前者は鎮営企業と商業（国営商業と供銷合作社＝購販農協）へ、後者は村営企業と個人へ貸出している。（中国の鎮は日本で言えば町、同じく村は集落である。）しかしこの分業は、信用社の業務分野が農銀から独立に確保されているということではなく、業務は信用社のものを含めてすべて農銀支店によるものであり、それが帳簿

上仕訳されているという実態である。信用社は農銀支店に一体化されている。

(3) 両者間での資金関係については、信用社から農銀へ預け金がされている。この信用社預金→預け金の関係は、農村資金の中央集中の強制政策の中で、地域内資金を農銀支店さらには中央へ集中させるものとして機能しており、信用社は農銀支店の資金ルートとして位置づいている。しかしながら事例における推計では、その資金源泉は農村住民の貯蓄資金ではなく、郷鎮企業（村営企業）の企業預金である。さらに信用社の預金金利と農銀への預け金金利との関係は、一般的には逆であるが、事例では順となり、これによる信用社から農銀への利益移転は生じていない。

こうして郷鎮企業の発展している地域では、資金上納の強力的吸引がありつつも、農村住民の貯蓄資金が地域内で循環することが可能になっている。しかし信用社は地域外から借入れを行っており、この借入金を原資とする貸出しは金利が逆となっている。これは資金上納による貸出原資不足を借入金で補完しているのであり、資金上納がなければ本来は信用社に帰属すべき利益が農銀へ移転しているといえる。

(4) 一方では農村資金の中央への強力的吸引による域内資金循環の制約と全国的資金再配分の不備というマクロ的要因により、他方では信用社の資金と利益の農銀支店への移転という農銀の経営的要因により、信用社は農銀への資金ルートとして位置づけられる関係が再生産されている。その結果、信用社は農銀に完全に吸収されつくされ、現状では分離、自立の機会を失っており、政策の意図する協同組合としての育成の展望は困難となっている。